



提案書

東海村“自分ごと化会議”
～公共施設の在り方を考える～



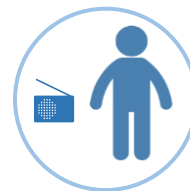
Growth



Relation



Relief



Life

令和 6 年 2 月 18 日
自分ごと化会議
メンバー一同

目次

01 プロローグ	1
02 私たちが大切にしたい4つのこと.....	2
03 東海村“自分ごと化会議”の実施概要	3
04 東海村公共施設一覧.....	5
05 施設レビューの概要	6
06 公共施設の“ありたい姿”の考え方	7
(1) “ありたい姿”の提案全体像	7
(2) “ありたい姿”を考えるための前提	8
(3) “ありたい姿”の考え方（機能（価値）ごと）	8
07 東海村公共施設の“ありたい姿”の15つの提案.....	9
(1) それぞれの施設に共通する“ありたい姿”	9
(2) それぞれの施設によって異なる“ありたい姿”	18
08 エピローグ・自分ごと化会議メンバー一覧	29

01 プロローグ

私たちは、8月から12月までの間、施設レビューや自分ごと化会議の全4回にわたって、「公共施設のありたい姿」について対話を重ねてきました。

参加者は高校生も含めて、年齢、地域、出身、職業、経歴、考え方などが異なる20名でした。

初めて顔を合わせたのは研修会。緊張感でいっぱい自己紹介に始まり、施設レビューでは施設所管課職員と外部有識者の議論をただ聞くだけではなく、私たちも積極的に対話に参加して、公共施設の現状と課題を知りました。続く、3回の自分ごと化会議では、公共施設の“あるべき姿”ではなく、“ありたい姿”をテーマにみんなで対話を重ねました。

身近にある公共施設ですが、知らないことも多くあり、会議を通じて私たちが住む村の公共施設を考える「自分ごと化」の第一歩になったのではないかと考えています。

対話を重ねるうちに、みんなの表情も緊張から生き生きとした笑顔に変わり、そして、ワクワク感が広がってきました。

そんな対話の結果を「15つの提案」としてまとめました。

この提案は、住民である私たちから村役場への提案という意味合いだけではなく、限りある財源の中で、今後、東海村における公共施設を効果的かつ効率的に運営させていくためには、役場だけに任せるのではなく、住民も共に「自分ごと」として取り組んでいくことが改めて大切だと思いました。

この提案書には全4回の対話を重ねる中で出された意見や提案を載せています。すべての村民の皆さん、東海村に関係する皆さんに届き、今後の公共施設に関する全地域での議論や協議の際に、有効活用していただくことを願っています。

令和6年2月18日

「東海村“自分ごと化会議”～公共施設の在りたい姿を考える～」メンバー一同



02 私たちが大切にしたい4つのこと

今回の自分ごと化会議を通して、私たちは公共施設について多くのことを知りました。

また、対話の中で、大切にしたいことにも気づきました。

次の4つは、私たちが“公共施設の在りたい姿”を考えるとときに“大切にしたいこと”です。

1. 必要とされる価値を必要としている人に届ける

- 公共施設には本来の目的があります。それは、村民や村内で活動する人々が抱える何らかの社会的課題に対応することです。まずはそこが基本であることを認識し、目的に向かって施設の効率化や収益性、受益者負担を考えることが大切です。

2. 人と人との“つながり”の核にする

- ネット社会が進む今こそ、あえて“人と人が顔を合わせる場所”が必要です。公共施設はその拠点です。人と人がつながることで個々の成長につながり、また、地域の活気や信頼、助け合いなどの地域力が高まります。
- そのためにも、“つながり”の核になる「居心地よい場所」としての環境や機能が公共施設には必要です。

3. 村と我々（住民）と一緒に創り上げる

- 公共施設の価値を高めるのは村民や村内で活動する我々です。また、未来に向かって、公共施設の維持、発展を考える責任は我々にもあります。村に頼るだけでなく、我々も自分ごととして、共に公共施設を創り上げるという姿勢が大切です。
- そのためにも、我々が公共施設のことをもっとよく知り、話し合い、考えることが必要です。

4. 全体最適視点での改革を進める

- 今後の東海村の人口動態や財政状況を踏まえた、公共施設の効率化、収益性、受益者負担など、適切な改革は必要です。ただ、大切にすべきは、個々の施設の部分最適ではなく、村全体のビジョンや政策からの全体最適の視点です。



03 東海村“自分ごと化会議”の実施概要

(1) テーマ

「公共施設の在り方」を考える

(2) 参加者

■ 自分ごと化会議メンバー

住民基本台帳から無作為に選ばれた 1,000 人の中から応募のあった村民 14 名

茨城県立東海高等学校生徒 6 名

■ 外部有識者*施設レビュー（公共施設の課題整理）のみ参加*五十音順

今泉 宏保 氏（群馬県太田市役所 職員）

桑子 幹弘 氏（群馬県太田市役所 職員）

高橋 英幸 氏（民間人）

永久 寿夫 氏（名古屋商科大学経済学部 教授／一般社団法人構想日本 シニアアドバイザー）

比嘉 亜弓 氏（NRI システムテクノ株式会社 取締役）

古橋 徳人 氏（民間人）

■ ナビゲーター（対話の話題提供役）*第2回自分ごと化会議に参加

襟川 文恵 氏（横浜美術館 経営管理グループ渉外担当）

■ コーディネーター（対話の進行役）

熊井 成和 氏（一般社団法人構想日本 特別研究員）

(3) テーマ各回の会議概要

■ 自分ごと化会議～施設レビュー(公共施設の課題整理) ～@8月26日(土)、8月27日(日)

東海村が管理する公共施設のうち、多くの村民等が利用する 4 区分 20 施設を対象として、施設区分ごとにくつかりの施設を取り上げ、その現状と課題について、東海村施設所管課職員、外部有識者、私たちが議論を行い、それをもとに①施設の有効活用（利用状況）、②施設の管理（維持管理コスト）の2つの視点で施設区分ごとに評価を実施しました。また、今後さらなる対話が必要と感じた論点や疑問点については、施設評価シートに記入しました。

■ 第1回 自分ごと化会議@10月8日(日)

施設レビュー（公共施設の課題整理）の結果について整理を行い、メインテーマと議論テーマを設定して、公共施設全体に共通する“ありたい姿”を取り上げて対話を行い、最後には改善提案シートに記入しました。

メインテーマと議論テーマは、以下のとおりです。

➤ メインテーマ

東海村の公共施設「ありたい姿」を考える！～わたしが公共施設に求める価値（コト）とは？？

➤ 議論テーマ

公共施設の「有効活用」・「収益性」を考える！～利用者アップ・収益アップの仕掛けづくりについて考えよう～

■ 第2回 自分ごと化会議@11月5日(日)

これまでの対話から見てきた公共施設が持つ機能（価値）を5つに整理し、その視点から公共施設の“ありたい姿”に関する対話を行いました。最後には、改善提案シートの記入を行いました。

機能（価値）区分は、以下のとおりです。

- 自己実現のための機能
- 成長のための機能
- 安全のための機能
- 社会的な機能
- 命を守るための機能



■ 第3回 自分ごと化会議@12月17日(日)

これまでの対話で話してきたことや施設評価シート・改善提案シートの内容等を取りまとめた提案書（素案）を基に対話を行いました。

提案書に追加・修正すべき内容がないかを確認し、さらに私たちや地域ができることはないかについて話し合いました。最後には、私たち一人一人が、公共施設のありたい姿を考えていく上で、一番大切にしたいことを発表しました。



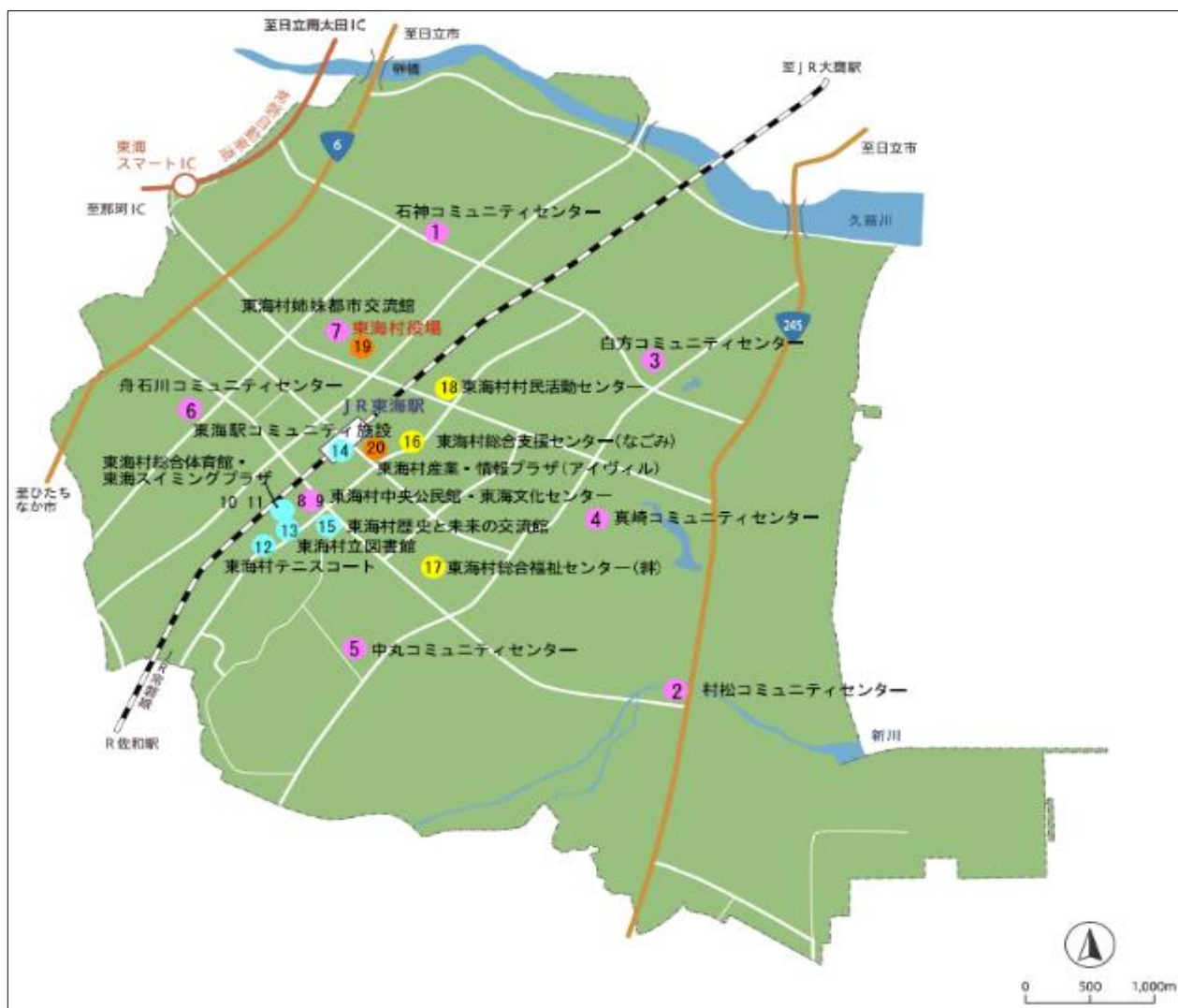
04 東海村公共施設一覧

東海村が管理する公共施設 10 区分 55 施設のうち、本会議の対象施設となった「多くの村民等が利用する 4 区分 20 施設」は次のとおりです。

No	施設名	No	施設名	No	施設名
1	石神コミュニティセンター	8	東海村中央公民館	15	東海村歴史と未来の交流館
2	村松コミュニティセンター	9	東海文化センター *	16	東海村総合支援センター「なごみ」
3	白方コミュニティセンター *	10	東海村総合体育館 *	17	東海村総合福祉センター「絆」 *
4	真崎コミュニティセンター	11	東海スイミングプラザ	18	東海村村民活動センター
5	中丸コミュニティセンター	12	東海村テニスコート	19	東海村役場 *
6	舟石川コミュニティセンター	13	東海村立図書館 *	20	東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」 *
7	東海村姉妹都市交流会館	14	東海駅コミュニティ施設		* 施設レビューで説明があった施設

■ 市民文化系施設、■ 社会教育系、スポーツ・レクリエーション系施設、■ 保健福祉施設、■ 行政系施設・産業系施設

■ 対象施設位置図



05 施設レビューの概要(詳細は別冊“施設レビューの結果”を参照)

2日間に渡り、施設区分ごとに施設レビュー（公共施設の課題整理）を実施しました。

【施設レビューの大まかな流れ】

■ 施設説明@10分程度

施設所管課職員が「施設シート・事務事業評価表（適宜、パンフレットやフライヤーなど）」を活用しながら、各施設に関する現状を説明しました。



■ 議論@40分程度

説明をもとに、コーディネーターの進行のもと、外部有識者4名と私たちが、施設所管課職員と一問一答で議論を行い、各施設及び施設区分ごとの現状の把握と課題出しを行いました。



■ 意見@10分程度

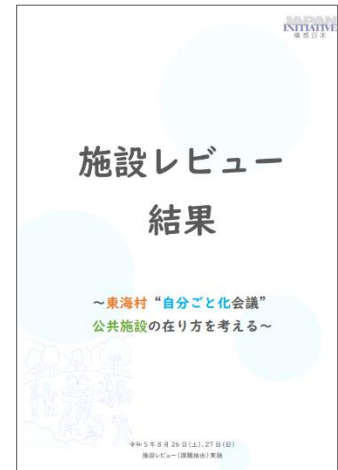
議論を受けて、私たちが考えていることや意見を出し合いました。



■ 評価@10分程度

これらの議論を聞いた私たちが、①施設の有効活用（利用状況）、②施設の管理（維持管理コスト）の2つの視点で施設区分ごとに評価（適正（現状維持）、見直しが必要）を実施しました。

結果は以下のとおりです。



レビュー 区分	区分	施設の有効活用（利用状況）						施設の管理（維持管理コスト）					
		適正 (現状 維持)	見直しが必要					適正 (現状 維持)	見直しが必要				
			複数回答可				その他		複数回答可				その他
			事業内容の 見直し	民間による 事業展開	使用用途の 見直し	その他			受益者負の 適正化	管理手法の 見直し	総量の 見直し	その他	
区分① 市民文化系 施設	外部有識者	0	4	3	1	1	1	0	4	2	3	2	0
	自分ごと会議 メンバー	3	8	2	2	4	1	1	10	3	3	2	3
区分② 社会教育系、スポーツ・レク リエーション系施設	外部有識者	0	4	2	3	0	0	0	4	1	4	1	0
	自分ごと会議 メンバー	6	4	2	2	0	0	3	7	3	4	0	0
区分③ 保健福祉施設	外部有識者	0	4	2	2	0	1	0	4	2	3	1	0
	自分ごと会議 メンバー	3	7	1	2	1	4	3	7	2	3	1	1
区分④ 行政系施設、産業系施設	外部有識者	0	4	4	3	3	0	0	4	3	4	1	1
	自分ごと会議 メンバー	1	9	4	4	1	1	0	10	1	7	3	1

06 公共施設の“ありたい姿”の考え方

(1) “ありたい姿”の提案全体像



公共施設の施設区分			公共施設の機能（価値）	
市民文化系施設	社会教育系、 スポーツ・レクリエーション系施設	保健福祉施設	行政系施設 産業系施設	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己実現・成長機能 ○ 社会的機能 ○ 安心機能 ○ 命を守る機能

(2) “ありたい姿”を考えるための前提

■ バックキャストिंगで考えました！

公共施設の未来の“ありたい姿”を話し合い、共感（ただし、共感できなかった部分も理由を含めて共有することが重要）を得ることで、村のビジョンになっていくので、最初に目標とする“ありたい姿”を描いた上で、それを実現するための道筋を未来から現在へ遡って考える、バックキャストिंगで対話を進めました。

■ 時間軸はこのように考えました！

時間的な要素にとらわれず、まずはスタート地点から未来を展望するための大きな方向性として“ありたい姿”を考えることが長期的には重要です。そして、今後大きく変わるであろう社会状況に柔軟に対応するためにも、「具体的な計画は流動的に変化する」という現実的な考え方も前提に対話を進めました。





■ 現状把握と分析が必要です！

“ありたい姿”を考える大前提として、公共施設の現状を把握し、それをしっかり分析することが必要です。数的データ（利用率や延べ人数に加えて、実人数や世代ごとのデータなど）と質的データ（利用者の声や潜在的なニーズ、真にその施設を必要としている人など）の両方を把握することが重要です。

(3) “ありたい姿”の考え方（機能（価値）ごと）

第2回自分ごと化会議では、公共施設の持つ機能を、5つの機能（価値）に整理しましたが、「成長」と「自己実現」の機能については1つの機能に統合しました。

4つの機能の役割とロゴは以下のとおりです。

機能	役割	ロゴ
自己実現・成長	自らを高めるための場所を提供でき、東海村ならではの活力を高め、収益性を考えた機能展開を実現できる。	
社会的	人と人のつながりの拠点になり、弾力的運用等で魅力を高めることができる。	
安心	必要なサービスが必要な人に届き、収益化よりも本来の目的を大切にできる。	
命を守る	災害などの緊急対応機能が万全である。	

07 東海村公共施設の“ありたい姿”の15の提案

以下の15の提案は、自分ごと化会議での私たちのこれまでの対話やシートに記入した内容を中心にまとめたものです。

(1) それぞれの施設に共通する“ありたい姿”に関する7つの提案

1. 村全体、エリア、施設の各ビジョンをつなげたい
2. 施設間の連携や施設内の機能を連携させたい
3. まずは村民に知られる公共施設にしたい
4. アクセスしやすい公共施設にしたい
5. すべての人に優しい公共施設にしたい
6. すべての人が利用しやすい仕組みを作りたい
7. 公共施設の真の価値、目的を大切にしてほしい

(2) それぞれの施設によって異なる“ありたい姿”に関する8つの提案

■ 有効活用

8. 人同士のつながりを大切にしたい
9. 防災機能を整えたい
10. 自宅と職場以外の居心地の良い場としての役割を持たせたい
11. 新しい魅力を創り出したい
12. 再編視点で機能の集中と選択を考えたい

■ 収益性

13. 施設の目的と利用者の状況を踏まえた適正な負担を考えたい
14. コストをできるだけ抑える手法を考えたい。
15. 新しい収入の道を考えたい

(1)それぞれの施設に共通する“ありたい姿”に関する7つの提案

提 案

1. 村全体、エリア、施設の各ビジョンをつなげたい

【提案内容】

それぞれの公共施設を考えるためには、まずは村全体のまちづくりビジョンを基に考えることが大切であり、個別施設の部分最適よりも村全体の全体最適という視点が必要である。

また、公共施設が立地するエリアの価値を活かすためには、そのエリアのビジョンや開発デザインにも注目することを提案する。

「提案 1」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政

「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）

- 自治体（村）で公共施設を運営するのであれば、「東海村として」何を強みにしてやるのかを明確にする。

「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）

- 個別施設、組織の部分最適ではなく、村全体、村民全体にどのような価値を提供するのかという全体最適の視点を持つ。
- 建物ごとではなく、文教エリアとしてより多くの住民が集まれるような開発デザインを行っていく。
- 公共施設全体として、縦割りではなく横の連携を考えて、回遊性等を設計する。
- 分散して立地している公共施設間の回遊性を確保するための手段を検討する。

地私 た ち 域 ち

- ✓ 公共施設にもってほしい機能や配置場所、今後人口が減少したとしてもぜひ残しておきたい施設やその機能を私たち一人ひとりが考える。

参加者からの主な意見

- 組織（部や財団、委託先など含めて）の壁をなくし、全体最適で計画すると良い。
- ビジョンを考えるにあたり、より多くの人々が満足できる着地点を探すことが大事ではないか。
- 生活者の観点からビジョンに対する具体案を積み上げることにより生活を改善する・向上させる point が必要。
- 回遊性のあるエリアが魅力的になれば、自然と人も集まるが、子どもも利用するので交通安全面にも気を使ってほしい。
- 緑を大切にしてほしい。東海村の魅力ある豊かな自然を無計画に壊さないで！
- 公園を核とした、ギリシャやスペインの試みのように、住みよい街づくりを村の魅力にできたら良いと切望します。
- 東海村の自然を生かした公園をもっと（小規模でも良いのでたくさん）作る。
- 村の公共施設は非常にいろんなところに分散しているので、公共施設間において、巡回バスの運行などを検討し回遊性を確保する。

【提案内容】

公共施設の魅力アップを考えるためには、施設単体でその魅力を追求するだけでなく、他の施設との連携による新たな魅力創造にも注意を払うことが必要である。そのためにも、施設間や組織間の壁をなくし、組織間連携を図っていき、複合施設においては施設内の各機能が連携することで、施設価値が高まっていくのではないかと。

「提案 2」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政

「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）

- 各施設や各運営組織のメンバーが定期的に情報交換し、連携方策を検討する場を作る。

「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）

- 利用者からの「こんな利用をしたい。」という相談に「それならこの施設が使える。」というような総合的な仕組みを検討する。
- 施設間、運営組織間の状況が共有できる仕組みを考える。
- 各施設、組織が連携した共同イベントなどを企画する。
- 利用率や需要の高い機能を、他の施設にも展開できる方策を検討する。

地私
私た
たち
域ち

- ✓ まずはいろいろな公共施設に足を運んでみる。

参加者からの主な意見

- 絆については、各センター間で共同したイベント等を行うことで利用率のアップを目指すべき。
- 中央公民館、アイヴィル、ステーションギャラリー等を上手に連携して有効に活用してほしい。
- 総合体育館は稼働率が他施設より高いので、その運営ノウハウを水平展開して他施設（コミセン等）の運営に反映してはどうか。
- 村のスポーツ施設と学校の体育館を連携させた活用を検討してはどうか。
- 図書館はイベントとともに、コミュニティセンターの活用や学校との連携、移動図書館などの工夫があるとさらに活発な事業になるのではないかと。
- 図書館保有の DVD 鑑賞会を行うなど施設間で連携してはどうか。
- 保健福祉施設等のハードとソフトを含め、それぞれの施設がどういった役割を担い、公共施設全体の中での位置づけられているのかを考えるべきではないかと。
- 「絆」の児童センターを目的に来場したとしても、高齢者や障害者の方と接点をもていただくなど、施設内で一体化の運営をしていくことで皆さんの相乗効果や繋がりが広がるのではないかと。
- 東海駅から遠い地域は、図書館等へのアクセスが悪くなるので、個々のコミュニティセンターごとに図書館機能を持たせて、東海村のどこに住んでも一定の教育文化レベルが得られるようになると良い。
- 「こんなことをやりたい」と相談すれば「この施設を使ってみては」という窓口があると良い。施設を管理する側も柔軟に発想して、色々提案することで機能連携が進むと思う。
- 妊婦等が「絆」の保健センターを訪れた際に、別エリアである児童センターを利用している子育ての中の先輩お母さんや、高齢者センターを利用している高齢者に、子育ての悩みを相談してみる。

【提案内容】

今回の会議を通じて、私たち自身が村内の公共施設について知らないことが多々あると気づいた。まずは、私たちが公共施設のことをもっと知る必要があり、併せて村外への PR を考えるべきだと感じた。

そのために、誰にどんな情報を届けるのかというターゲティング視点を持ち、世代ごとに適した媒体を通じて情報発信すること、村民同士が口コミで情報を伝え合うこと、施設利用の体験を通じて施設を実感することを可能にする対策を検討することを提案する。

「提案 3」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行
政

「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）

- LINE 等を用いて公共施設で実施するイベント情報を繰り返し（1 度きりだけでなく前日や当日も）周知する。
- 時代や世代ごとに異なる情報発信手法の把握に努め、適切な媒体を通じて、村民に対して情報発信をする。
- 安心して来場ができるように、バリアフリーの改修状況などを事前に周知する。

「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）

- なし

地
私
域
た
ち

- ✓ 公共施設で実施予定のイベントを掲示板や Instagram を見たり、確認したりする。
- ✓ 実際に参加したイベントなどの感想を積極的に SNS 等で発信していく。
- ✓ 公共施設の話をしたり、仲間や友達を誘って実際に行ってみたりする。
- ✓ ホームページや施設に備え付けられている要望書を書いて投稿してみる。
- ✓ 高校生世代に対しては、公式 x（旧 Twitter）よりも公式 Instagram で周知する。

参加者からの主な意見

- それぞれの企画の特性ごとにターゲットを分けて情報発信を考えているか。
- 実際に見た人(身近なところ)の発信が、一番信用できる情報である。
- 周知は公式 LINE や x（旧 Twitter）などを利用してはどうか。
- 情報の拡散に関して、もう 1 人先の人に届けるためにはどうしたらいいかを考えると良いのでは。
- 多くの方に使っていただくための発信の仕方も工夫すべきではないか。
- 宣伝に力を入れた方が良い。
- 公共施設の PR のためのポスターを作成する。
- 広報などに民間を利用することも検討してみてもどうか。
- 未利用の施設は入りにくいので、体験学習のようなものがあれば利用する人が増えるのでは。
- 図書館では、レファレンス機能※があることをみんなに知ってもらい、どう使うかの周知も重要だと思う。例えば、学生の方が論文などを書きたいときにいろいろな参考文献を探してくれたりすると思うので、そういったところも PR してほしい。

※レファレンス機能…何らかの情報あるいは資料を求めている図書館利用者に対して、司書が仲介的立場から、求められている情報あるいは資料を提供ないし提示することによって援助すること、及びそれにかかわる諸業務。

- 図書館については、攻めの方針を立て、東海村の方向に合わせた、例えば、情報・原子力等の科学の蔵書を増やすとかして広報を展開してはどうか。
- PR 方法についても、東海駅やイオン東海店などを中心に認知度向上を行っても良いのでは。
- 保健福祉施設において、身体に支障がある方しか利用できないイメージがあるので、健康な人(未病や健康増進の取り組み)でも気軽に活用できるといった情報発信ができるの良いのではないかと。そのためには、施設や事業を周知し、知ってもらった上で来場してもらうことが重要であり、例えば、健康体操を「絆」でやっているの、それを聞いて「今度行ってみよう」と思う人が増加すれば良い。
- 「絆」は、多くの機能がありすぎて館内が分かりにくく、入り口すぐの受付もどこに行ってもいいか分からない。
- 未病や健康増進の取り組みについても情報発信してほしい。
- アイヴィルがどこにあるのかすら知らず、生まれてからずっと会社なのかなと思っていたので、目印や、「アイヴィルではこういうことができるよ」というような広告などがあると入りやすいのではないかと。



【提案内容】

公共施設を使うべき人に使ってもらうためには、自宅などから施設への移動手段が必要である。現状では自家用車による来訪が多いが、近い将来には高齢化が進み、自分で移動手段を持ってない村民が増えることが予想される。

そのためにも、今の段階から、公共施設へのアクセスをいかに確保するかについて、様々な状況におかれた住民を想定した、総合的な交通手段対策の検討を提案する。

「提案 4」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● なし
行政	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期的に公共施設に向かう循環バスを運行するなど、交通手段の改善を考える。 ● 福祉施設間を結んだり、スタッフなども行き来したりしやすい交通手段を考える。 ● 駐車場不足の施設は、解消対策を検討する（例えば、近隣の商業施設の駐車場の共同利用など）。 ● 新しい時代の移動手段に関する技術を先取りする取り組みを検討する。 ● 役場の一部の機能をアクセスの良い公共施設に移し、村民が利用しやすい環境を整える。
私たち	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自家用車以外の方法で公共施設に行ってみて、何が不便かをフィードバックする。

参加者からの主な意見

- 小さなバスのオンデマンド配車サービスなど、定期的に循環するような施設を結ぶ交通、システムがあるとすごく良いと思う。
- 高齢者は自分で運転しない方も多いことから、バスなどの移動手段が必要。
- 高齢者は公共交通機関を利用するに至るまでの「あし」が無いこともあるので、そこも含めて移動手段を検討する。
- 駐車場不足については、公共施設の近隣にある商業施設の共同利用などを検討する。
- 総合体育館横の駐車場の入り口が分かりにくい。
- 駐車場をいっぱい作って、使いやすいようにしないと今のままではしょうがない。
- 駐車場を増やすにしても、適切な数を算定することは難しい。
- コミュニティバスなどの運行を検討する。
- 無人運転する車などの導入など、新しい時代の技術を先取りする取り組みも検討する。
- 他の自治体では導入していない自動運転などを率先して導入することで、東海村の特色を創り出せるのではないかな。

【提案内容】

公共施設は、高齢者や障がい者だけでなく、若い世代も含め、「誰にとっても優しい施設」とあるという視点が重要である。物理的な優しさだけでなく、施設の性質によっては、利用者のプライバシーに配慮するなど心理的な優しさにも想像を働かせたい。

ハード面におけるバリアフリー環境（2階への移動やトイレの利用などに支障がない）の整備や、ソフト面での住民ニーズに応じた施設の土日祝の開館や開館時間の延長を提案する。

「提案5」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行 政	「短期的（まずはここから!）」 に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● バリアフリーに関する情報を積極的に発信する。
地 私 た ち 域 ち	「中長期的」 に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが利用しやすいように、エレベーターのない公共施設は設置を検討する。 ● 子育て世代や働いている人が公共施設を利用しやすいように、土日祝の開館や特定の曜日の開館時間の延長を検討する。
地 私 た ち 域 ち	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 色々な立場、状況の人の視点で公共施設を見る。 ✓ マナーを守って、来た時より帰るときの方が綺麗になるように使用する。

参加者からの主な意見

- 一部欠損があるにしても、今のままでも十分優しい運営をしていると感じる。
- 高齢者や弱者の方に寄り添う姿勢も大切ですが、若い方に対して施設を使いやすくすることで使用用途の幅が変わるのでは。
- 弱者や高齢者などに届くサービスを提供する施設は、安心した生活に繋がるために必要である。全村民にとってもそういう施設があることが望ましい。
- コストの問題でバリアフリー化ができないとは今の時代では考えられないのではないかな。
- このバリアフリーの時代に、エレベーターがないのはどうかと思う。
- 総合体育館の駐車場の入り口が分かりにくい。また、自転車置き場と接近しており、利用しにくい。
- 村役場も月2回夜7時まで延長するようになった。おかげで、そのときにタイミングを合わせれば社会人の方でも、色々な手続きができるようになった。サービスも変化していると感じる。申請とか何かの相談がしたくて困っているという方に対しては、同様に門戸を開くという意味で、このようなサービスを広げてほしい。
- 役場などを土日に利用したい人も多いのではないかな。
- 住民の声を聴き、開けてほしいと思っている人がいたら検討してほしい。
- 開館しなければいけない日に開館していない感じがします。
- 福祉関連施設については、プライバシーにも配慮するという考え方が大切。
- 大きな音を立てるマナーの悪い利用者や出くわすこともあるので、そういった方に注意をしたりしていただきたい。

【提案内容】

公共施設の利用手続きについて、デジタルの活用を推進していくことが利便性を高めるという意見が出された。一方で、デジタル手続きに馴染まない状況の方々への配慮も必要であるとの意見も出された。

将来のデジタル化への移行を前提に、併せて過渡期の措置としてアナログの手続きも残しつつ、利便性向上のためにデジタルで公共施設の予約や支払いを完結できるように推進することを提案する。

また、デジタル化は手段であり、手続きが繋がることで利便性が向上することに本質があることを理解した上で、デジタル化を進めることを提案する。

「提案 6」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 予約や支払いに関して、従来通りの手続きも残す。 ● 公共施設の予約をするにあたり、予約状況を現地に行かなくてもわかる仕組みを検討する。
地 私 た ち の 地 域	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 村全体で施設予約についてのワンストップ窓口を持つところを目指す。 ● クレジットカードやバーコード決済などで支払う仕組みを検討する。 ● 時代の流れもあるので、アナログで支援するのではなくて、デジタルに変えてデジタルでやることを支援する。
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタルツールが導入された際には、積極的に活用する。 ✓ 時代についていくことも重要であるので、新しい技術（デジタル）を積極的に使ってみる。 ✓ ワンストップ窓口を使ってみる。

参加者からの主な意見

- 予約等については、村全体の施設に関しての課題の一つでもある。村全体でオンライン予約ができるような仕組みを検討してほしい。
- 総合体育館は、電子マネー決済が使えるようにしてほしい。
- 総合体育館は予約方法、キャッシュレス化など即対応ができると思う、社外のシステム導入をしたら良いし、時代的に現金による事故を考えるべき。
- 予約や支払いの電子化は必要だとは思いますが、高齢者などの方のために窓口業務も残してほしい。
- 高校生は電子決済やクレジットカードは持っていないので、現金払いも使えるようにしてほしい。
- 電子化して便利になる。ただそれになじまない方もいらっしゃるのでもっと大事にしてほしい。
- 最近あえて新しい技術を使わなければいけないかなと思っている。
- アプリケーションだけにたよるのはあまり良くないと思う。
- コミュニティセンターの予約をデジタル化してほしい。
- 予約に関して、二度手間になるようなことを減らしてほしい。
- 総合体育館の利用や予約状況について、行かなくてもわかるシステムを導入してもらえると分かりやすい。

【提案内容】

公共施設の意義や目的は、存在すること自体ではなく各分野の施策や事業を遂行するための手段であり、公共施設ごとの意義や目的を意識する視点が肝要である。

必要なところ（人）に必要なもの（サービス）を届けることに公共施設の真の価値がある。その点をしっかりと考え事業で達すべきこと（目的）を明確にした上で、事業評価できる仕組みを作り、村民の意見を反映した個別施設計画の作成等を提案する。

「提案 7」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● なし
行政	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的を明確にして、目標を達成するためのロードマップや施設管理計画をしっかりと定め、継続的な施設運営及び村の繁栄に繋げていく。 ● 公共施設の規模を縮小させたとしても、利用者が満足することを目指す。 ● 公共施設のハコモノとしての方向性は、民間に任せることも検討する（事業内容は行政が考える）。
地私 域た ち	<ul style="list-style-type: none"> ✓ なし

参加者からの主な意見

- 全体としてのビジョン（ありたい姿）を明確にし、そこからバックキャスト、施設の役割を再定義し、今やるべきことについてより効果的な手段を考えていきたい。
- 村全体の戦略とビジョンとその手段としての施設というのがあるべき関係性だと感じ、その上で、何を担う施設なのか、何を目標として、いつどうやって達成するのかといったロードマップがもう少し具体的に設定されるべきだと感じる。
- 本来、果たしている機能と単なる箱としての施設を一緒にしてはならない。大切なのは、本質的な必要なところに必要なものを届けるということが真の価値である。
- 全体的に設備、施設管理計画や実行は行き当たりばったりになっている。
- 使う金額、計画の積み上げではなく、全体を見ることが必要。
- 整備されたコミュニティセンターは、村の資源だと思います。その空間を主に福祉面での地域に密着したサービス提供の場に、民間の力も併せて出来たら良い。
- ビジョンを考える上で、施設ごとに、例えば文化センターみたいな概念だと、もしかすると、もっと広域的に大きいものがどこかにあれば、そこを利用するかもしれない。

(2)それぞれの施設によって異なる“ありたい姿”の8つの提案

■ 有効活用

提 案

8. 人同士のつながりを大切にしたい

【提案内容】

人が集まる公共施設は、“つながり”の拠点として機能させることの重要性が高い。特に、デジタル化が進む状況では、人同士が集まり交流できる場所を確保することは、世代間、近隣をつなぐを強めることになり、あらゆる場面での助け合いを実現する。

そのために、それぞれの施設が持つ性質を最大限に活かし、村民同士の“つながり”を作り、深める公共施設を目指すことを提案する。

この提案に関して施設が持つほしい機能（価値）



「提案 8」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
行政	すべての公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 広く人が集まれる場所を重要視する。 ● デジタル化が進む中でこそ、人同士が集まって交流できる場所として機能させる。 ● “つながる”という雰囲気醸成する。
	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● つながりの拠点として機能させる。 ● 将来を見据え、若い時期から人とのつながりを作る場とする
	東海村総合体育館	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合体育館の近くに東海高校と東海南中学校があるので、中高の運動部と大人のチームの交流を考える。
	東海村立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ● 出会いと交流のコンセプトを充実させる。
	施設区分（個別施設）	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども世代、親世代、高齢者の縦の繋がりや隣近所の横の繋がりを促進する仕組みを考える。 	
地 私 た ち 域 ち	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コミュニティセンターを利用してみる。 ✓ 地域活動（自治会等）に積極的に参加する。 	

参加者からの主な意見

- 人同士が集まって交流できる場所として機能してほしい。
- 助け合いの精神が社会性（つながり）には含まれている。
- 孤立化が進むことで、社会が崩れてしまうという懸念が膨らむ。つながりをもたらす施設は必要。
- 人と人がつながる場所を今のうちに作っておきたいという希望を持っている。そのような場所があると助かる。今のまま交流があるような施設で残っていてほしい。
- 助けを求める場所があることは街の優しさの機能として重要。
- 条件や環境、人によって違いますが、いろんなコミュニティがあると思うので、つながりは少しでもあれば良いと思う。

- ネットでも関係性は構築できるかもしれないが、あえて顔を突き合わせ、腹を割って話をするというような関係性を構築していくことは、それはそれで良いかなと思う。
- 新たなコミュニティの在り方として、デジタル化の推進も重要だが、一方、直接会って話すことも重要。
- SNS とかではなかなか感じ取れない人の五感っていいですかね。感じる空気感みたいなものって絶対ある。
- 人が集まる機会が少なくなり、そういった時代になっても、あえて人が顔を合わせるような施設があった方が良い。
- 歴史的な経緯を無視して、収益性だとかそういう考えで進めるのは、地域のつながりを壊してしまうのではないかな。
- 昔はプライバシーなどもあまり難しくなく、困っている人がいれば近所の人たちが助け合っていた。
- 幅広く人が集まる場を考えることが重要。
- 管理団体が違ってつなげる雰囲気を作ることができると良い。
- 部活でも生徒と指導者だけではなく、周りの人とか、世代を超えた幅広い人との交流があっても良いと思う。
- 災害のときにも、周りのことを知っている顔と名前が一致していることで、助けが必要な人を見つけることができる。
- 隣近所の人々の顔を知っていることで、怪しい人を警戒することができ、安心に繋がる。
- 地域の人たちの顔を知っていることで、子供たちの安全にも繋がる。
- 大人が活動する姿が子供が見て、そこで大人が子供を教えるような機会も大切。交流する場所があるからこそこのような関係性も生まれる。
- 子供が学校に通っている頃は地域とのつながりがあったが、それがなくなると地域の人たちを知らなくなる。
- コミュニティセンターはつながりの拠点であり、子供世代、親世代、高齢者の縦の繋がりや隣近所の横の繋がりを促進する。
- 子供が大きくなり、地域の集まりが少ない。コミュニティセンターは地元の自治会じゃない人も行きやすく、分断を生まないオープンな公共施設であってほしい。
- 図書館が「出会いと交流」をコンセプトにしているのはすごくいい。
- 東海高校と総合体育館は近い。中学校もある。中高の運動部と大人のチームの交流も良いのではないかな。
- 東海高校の茶道部×高齢者の人、コンピューター部×お父さん世代で公共施設等を利用して、交流する場を持って良いのではないかな。
- 東海高校にはホッケー場があり、国体などで使用されている。女子ホッケー部は中学生と共有し、高校生以外も利用している。



【提案内容】

公共施設に防災拠点としての役割を持たせるためには、平常時から事前に準備しておくことが重要である。近年では毎年のように災害があるため、緊急時のための「安心・安全」が確保された施設が整備されていることは、わたしたちの日常生活を送る上での気持ちの余裕にもつながる。そのためには、身近にありつなりの拠点であるコミュニティセンターの機能を拡張して、より防災機能を持たせることを提案する。また、日常と災害を切り離すのではなく、平常時から防災教育の普及啓発の場として活用することを提案する。

この提案に関して施設が持ってほしい機能（価値）



「提案 9」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
	すべての公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災に係る村の取り組み（発電機の配置状況や電気自動車の配車等）を住民に周知する。
地 私 た ち の 地 域	施設区分（個別施設）	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災用品をただ揃えるだけでなく、普段から手入れをする。 ● 企業協賛も視野に入れた災害体験イベントの場として提供する。
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 避難所について知る。勉強する。 ✓ 避難訓練に参加してみる。 ✓ 地域の協力体制を作り、普段は地域で防災設備の維持管理を行う。 ✓ 自分が学んだ防災用品の利用方法を、周りの人に周知する。

参加者からの主な意見

- 災害時に、避難者を受け入れる際に、必要なモノが揃っている必要がある。
- 地域に即したコミュニティセンターと、防災に特化したコミュニティセンターに機能を分ける考え方もあるのではないかな。
- 災害拠点として充実させる優先度も考えていく必要があると思う。
- 防災の大きな拠点を決めて、コミュニティセンターはそういう機能を補佐する形で位置付けるのが良いのではないかな。
- コミュニティセンターからバス等を使って、大きな拠点に避難するような機能のすみ分けが出来たら良いのではないかな。
- 防災に関しての指揮命令システムを整理していく必要があるのではないかな。
- 防災機能を持たせないコミュニティセンターは集会所としての機能だけを持たせて、経費節減を図るのが良いのではないかな。
- 防災の拠点となるコミュニティセンターは村の直営にして、それ以外のコミュニティセンターは地域に任せるのはどうか。
- 災害別（原子力、台風、川の氾濫、地震）に特化した施設を考えるのが良いのではないかな。
- 地域によって、災害の種類と頻度が異なると思う。
- 地元の方々が日常的な防災設備の点検しながら、避難になることを地域に伝えることも重要である。
- 心の安全性（プライバシーの観点）を考えることも重要である。

【提案内容】

自宅や学校、職場でもない、居心地の良い第三の居場所のことを「サードプレイス」という。誰もが利用することのできる公共施設は、全ての住民の人たちにとっての究極のサードプレイスになる可能性を秘めている。人と人とつながる場所、安らげる場所を確保することは「心の安心や安定」をもたらす、「心身の健康」を維持することにもつながる。そして、それぞれの「成長」につながることも考えられる。

そのためには、公共施設が持っている開かれた特性を活かし、誰もが気軽に利用することができ、居心地の良い環境を提供することを提案する。

この提案に関して施設が持つほしい機能（価値）



「提案 10」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
行政	コミュニティセンター	● 伝統的な地域コミュニティを作るための場所としてだけでなく、誰もが気軽にできる出入りできる場所として活用する。
	東海村立図書館、東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」	● 学生等が集中・安心して勉強をすることができる場として活用する。
	保健福祉施設等	● 子どもの不登校により不安になった親御さんの集まれるような場所として活用する。 ● 病気や介護の当事者や家族が、不安や同じ悩みを抱えている方と集まれるような場所として活用する。
	施設区分（個別施設）	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	なし	● なし

地私
た
域
ち

- ✓ 生活の中で、趣味や興味がある講習やイベントがあれば積極的に参加してみる。

参加者からの主な意見

- 自治会は地元の人だけが活動する組織で、入りにくさを感じる。
- 学校に行けないけど勉強はしてみたい。しかし家では難しい学生はいると思う。
- 特に現役世代の過ごす場所は近くに少ないし自由にできる時間が少ないので身近にあると助かります。
- 居場所ってというか、これからの世の中の井戸端会議ができる場所みたいなのところになればいい。
- 図書館での子どもの読み聞かせを通じて、お母さん同士で仲良くなったりすると、繋がりが増えるのかなと思った。

【提案内容】

多様なニーズがある中で「誰もが利用できる公共施設」から「利用したくなる魅力的な公共施設」に生まれ変わらせることは重要な視点である。新しい魅力に気づき、それを創り出すことによって、利用者の増加や村全体としての人口流出の抑制や移住者の増加につながる。

そのためには、それぞれの施設が持っている機能を把握した上で、NPO や企業を巻き込んだ「東海村ならではの」イベントや、従来の使用用途にこだわらない企画立案することを提案する。

この提案に関して施設が持つほしい機能（価値）



「提案 11」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
行政	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● バーベキュー施設や調理室を利用したイベントや教室などを実施する。 ● スポーツフェスタを「スポーツを知ってもらうため」のイベントにする。水戸ホーリーホックや茨城ロボッツなどのプロチームと連携をさらに深めて、新規に興味を持ってもらえる人を増やす。
	スポーツ施設	
	東海村立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術情報の収集と併せて政治や科学情報の拠点とする。 ● イベントなどの交流する場として多機能を持たせる。
	東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」	<ul style="list-style-type: none"> ● パブリックビューイング※等の利用。 <small>※スポーツやコンサート等のイベントで、広場や競技場に大型スクリーンを設置して、大勢で観戦・観覧を行うこと。</small>
	施設区分（個別施設）	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
地 私 た ち	スポーツ施設、東海文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 部活動の地域移行の拠点として活用する。
	東海村立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ● 東海村のゆかりのある文化人が残した文庫をまとめたスペースを設ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ イベントに参加してみる。 ✓ クラブ活動や自主練習の場として総合体育館や文化センターを利用する。 ✓ 住んでいる場所から新しい魅力を創るきっかけを見つける。 	

参加者からの主な意見

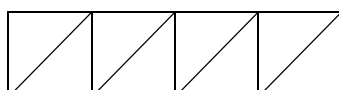
- 図書館として「ぜひこういふ本や絵本を読んでほしい想い」が、東海村ならではのつながっていくのではないかな。
- 東海村ならではの追求をしていくことが重要ではないかな。
- 東海村の歴史から「ならでは」を見出すことができるのではないかな。
- 仕事や生活の形態もアフターコロナで異なってきているので、それを見越した需要作りも必要ではないかな。
- 学校の先生の働き方改革というものがあって、部活動の地域移行が進められている。
- 東海村で特色のあるスポーツ種目（例えばホッケー等）の施設及びスタッフを充実させる。
- 図書館は、時代背景的に本を読む以外にも多機能化してきている。

【提案内容】

東海村のコミュニティセンターは小学校区ごとに 1 つあり、他自治体と比べて恵まれている状況にはあるが、人口減少にともない、今の段階から集中と選択を検討していくことは大切である。

そのためには、利用率などをしっかりと分析することや、地域の人達との対話（施設を利用している人だけでなく利用したことがない人も含めて）を重ねて、真に必要な数と適正な配置場所を検討していくことを提案する。

この提案に関して施設が持つほしい機能（価値）



「提案 12」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
	なし	● なし
行政	施設区分（個別施設）	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用率のデータ分析や使用していない人へのヒアリングや含め、現在の数が適当かどうか検討する。 ● 各地域の要望を聞く機会を設ける(各地区代表者へのヒアリング等)。
地 私 た ち の 地 域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 私たちが住んでいる地域のことを知る。 ✓ 実際に施設を利用し、本当に必要な施設であるか考えてみる。 	

参加者からの主な意見

- お金があれば、いくらでも建てれば良いと思うが、人口減少を考えると集約して大きな建物にすることが本来の動きではないかと思う。
- 増やそうとする意志には何も思わないが、減らそうとする意志には反対。
- なくなると嫌だなんていう気持ちはあるのですが、ただ一方で、お金や、いろんな状況で減らす必要があるようなことがいずれ出てくるかもしれないので、その際にはしっかりと議論はしないとけないと思う。
- コミュニティセンターは、それなりに使われているから良いが、あれば使うし有効利用もできるが、本当にこれだけの数があるのか分からない。
- 普段からコミセンを使う人から考えれば実に有効だし、使わない人から見れば、無くてもよいと思う。
- コミュニティセンターをまとめる担当課が、各施設の目的を生かした総括的運営方針を示し、それを基にスクラップ&ビルドする。
- コミュニティセンターを小学校単位ではなく中学校単位への見直しを考えても良いのでは。
- 再編は潰すということではなくて、全てのコミュニティセンターがフルスペックで同じものである必要はということではないか。
- コミュニティセンターをいきなり6 つから 2 つに減らすことには、抵抗があるのではないか。
- アイヴィルは再編の対象になるのでは。
- 施設の改修費が、年間 5%から 10%も掛かっているのであれば、10 年後、新しく公共施設を作れると思う。

- 公共施設は、必ずしも長寿命化するべきではないと思う。維持費等を鑑み、早めに廃止する施設があったっていいと思う。
- 「施設を長く使えば有効利用だ」という発想はあまりない。



■ 収益性

提 案

13. 施設の目的と利用者の状況を踏まえた適正な負担を考えたい

【提案内容】

公共施設については、採算性という概念に馴染まないものが多い。特に、災害などにおける「命を守る」機能や医療、介護、福祉における「安心」の機能については、利用率や収益性だけを考えることで本来の機能を損なうことは避けなければならない。施設の持つ本来の目的を達成することを第一に考えることを提案する。

一方で、産業系施設では、産業支援という観点から投資的意味合いも強い施設だと言える。好条件の立地を活かし、収益を考えた民間運営を円滑にするための条例改正なども視野に入れた活用を提案する。

また、社会的なつながりや成長といった機能を有する施設については、施設がもたらす価値を損なわないことを前提にしつつ、適正な利用者負担を考えることを提案する。

この提案に関して施設が持ってほしい機能（価値）



「提案 13」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

行政	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」 に取り組んでほしい方策（例）
	東海村総合福祉センター 「絆」	● 条例を改正し、1日パスや年間パスなども検討する。
	東海村産業・情報プラザ 「アイヴィル」	● 民間のビジネス展開を可能にするための条例改正などを検討する。
行政	施設区分（個別施設）	「中長期的」 に取り組んでほしい方策（例）
	すべての公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設が持つ公共的な役割を踏まえ、施設に合った収益性を考えることを基本に置く。 ● 施設の目的達成を第一に考えた適正な利用者負担を考える場を設定する。
地私 た 域 ち	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施設の価値を知る、使ってみる。 	

参加者からの主な意見

- 公共施設に収益性を持たせるよりも、他の分野で村全体の採算を考えた方が良い。
- 収益だけを考えた料金設定にすると利用が減ってしまい、本来の目的から離れてしまう。
- 使用料を上げると利用者数が減り、事業の目的を達成することができなくなる可能性がある。
- 公共施設のまま収益を求める施設にすることは難しいのではないかな。
- 利用率の高いトレーニング施設などは料金の見直しの可能性はあると思う。
- 安いと思うので少し料金をあげても良いと思う。
- 今は、現状の料金で良いのではないかな。

- 公共施設の利用料金は不要だと思う。
- 現状のサービスを向上させたうえで、利用料金アップを検討する。
- 維持管理費に必要なお金を利用料金としてもらうなど、コンセプトをきっちり出す必要があるのではないかな。
- 維持管理費が利用料金であれば、ニーズに合った機器を整備できるし、それにかかった料金は、あれは利用者利用者負担、受益者負担という原則で利用料金は上げることもできるのではないかな。



入場料

区分	午前 (8:00-12:00)	午後 (12:00-16:00)	夜間 (16:00-19:00)
大人(中学生以上)	200円	200円	200円
小人(小学生)	100円	100円	100円

(※料金 別途は無料と付けます。(ただし、必要費用の負担者が異なります。))

(その他使用に関する規定)

(1) 使用時間区分による縛りに満たない場合であっても経費割付区分は行いません。

(2) 施設が使用される場合は必ず事前を要した保護者の許可を要し、保護者の入場料を徴収させていただきます。

(3) 12:00-13:00の区間の16:00-17:00区間・施設清掃のため、プラザ内への入場はできません。

(4) プラザ内への食べ物の持ち込みは厳禁しております。



【提案内容】

東海村の財政状況は他自治体と比べて恵まれている状況にはあるが、将来を見据えたコスト対策を今の段階で検討することは有意義である。

そのために、あらゆるコストを適切に節減する意識を持つこと、細かい部分でそれを積み上げること、部分的な節減に止まらず、関連施設も含めた全体的な仕組みを変えることで節減を図ることを提案する。

この提案に関して施設が持つほしい機能（価値）



「提案 14」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
行政	すべての公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体DX※などによる効率化を検討する。 ● 民間委託の可能性を検討する。
	東海文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規の建て替えを前提に 10～15 年間は低コスト運営を検討する。
	東海村総合福祉センター「絆」	<ul style="list-style-type: none"> ● 有機的つながりを密にして、人件費コストを効率化する。 ● 管理体制の一元化を検討する。
	東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地条件が良いので、民間委託の貸ビルとして利用する。
	施設区分（個別施設）	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	すべての公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 光熱水費等のコスト上昇に対応するため細かい節減を重ねる。

※（Digital Transformation Local Government）の略、地方自治体がデジタル技術を活用して行政サービスの改善や効率化、住民参加の促進を進める取り組み

地 私 たち

- ✓ 施設を使用した後は、電気を消すことを心がける。
- ✓ ボランティアで施設の掃除などができないか考えてみる。
- ✓ 自分たち（高校生が部活で使用）が使用した場合は、清掃までしっかりと行う。施設の価値を知る、使ってみる。

参加者からの主な意見

- 光熱水費などは年々上昇傾向であることから、できるだけ無駄な支出を減らす努力が必要。
- DX に取り組む必要性がある。
- 紙が多い気がする。リモートワークも含め、デジタル化で節減の可能性が出るのでは。
- 適切な関係団体へのアウトソーシング※によって、村のコストを節約するのが良いのでは。
- 施設内の有機的つながりを密にして、時に管理部門の人員を減らす努力が必要。
- アイヴィルは立地条件が良いので、民間委託の貸ビルとして使うのが経費削減につながる。
- 臨時職員を雇用し、固定費を下げるのはダメ。
- 施設を長寿命化することが必ずしも経費の削減にはつながらないので、早期に廃止して新たな施設を検討することも選択肢として考えられるのではないかと。

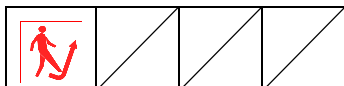
※従来職員が自ら行っていた又は新たに始める業務について、外 部の経営資源（人材、財源、知識、技術力等）に任せること。

【提案内容】

公共施設の目的達成を第一に考えた上で、その施設の可能性を活かした新しい収入の方策を考えることは、施設の安定的な維持を図るためには重要な視点である。

そのために民間のノウハウを活かす指定管理者制度を柔軟に活用することを提案する。

この提案に関して施設が持つほしい機能（価値）



「提案 15」の実現に向けて、行政に取り組んでほしいこと、私たち・地域ができること

	施設区分（個別施設）	「短期的（まずはここから！）」に取り組んでほしい方策（例）
行政	指定管理者制度の導入公共施設（東海文化センター、東海村総合体育館、東海スイミングプラザ、東海村テニスコート、東海駅コミュニティ施設、東海村総合福祉センター「絆」、村民活動センター）	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者の取り組みに対して、第三者評価（外部の視点）を実施して住民に見える形で結果を公表する。 指定管理者が柔軟に対応できるための条例改正を検討する。
	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> 考えられる委託先を想定し、委託と直営との比較検討をする。
	東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス展開も含めた民間活用を積極的に考える。また、そのための条例改正なども検討する。
	施設区分（個別施設）	「中長期的」に取り組んでほしい方策（例）
	東海村総合体育館、東海スイミングプラザ、東海文化センター等	<ul style="list-style-type: none"> ネーミングライツパートナー※を検討する。 <small>※契約により施設の名称に企業名や商品名を冠した愛称を付与させる代わりに、ネーミングライツを取得した企業等から対価を得て、施設の運営維持と利用者のサービス向上を図るもの</small>

地私
た
域
ち

- ✓ 指定管理者の取り組みについて村民目線でチェックする。

参加者からの主な意見

- 指定管理者が一社独占状態なのは競争原理が働かないので、競争相手を探して、競わせるのが妥当。
- 現在の指定管理者制度が事業の効率化の改善や新たな発展を抑制する結果を招いている可能性がある。
- 指定管理の選定はどのようにされているのですか、公募があって、それでその中から選定されるってことですか。
- 条例を変えていくには、議会を交えていかなければならないが、そういうことを努力された方が良いのではないか。
- 指定管理者である社協のみで、「絆」の利用者の把握をするのが難しいのであれば、外部（民間）を入れて、調査することも検討すべき。
- 文化センターの運営に関して指定入札団体の複数化を検討する。
- ネーミングライツパートナーの募集を行う。

08 エピローグ・自分ごと化会議メンバー一覧

～エピローグ～

公共施設について知らないことがたくさんありました。

施設レビューや自分ごと化会議で、
身近にある公共施設のことをいろいろ学び、そして、考えました。

どんな価値があるのだろう。

どんな人の役に立っているのだろう。

将来も維持できるのだろうか？

いろいろ意見を出し合いました。

公共施設の“ありたい姿”を探した数ヶ月。

公共施設を通して東海村の未来を展望し、

提案書としてまとめました。

でも、これで終わりではありません。

これが第一歩です。

課題はたくさんあります。

村民の皆さん、一緒に知り、考え、実践しましょう！

自分ごと化会議メンバー

石 井 哲 朗
石 川 宏 子
大 内 美 羽
小 野 栄 一
笠 井 峰 子
黒 澤 恵 太
小 関 武
佐 伯 寿
高 橋 さ と み
田 中 幸 作
田 中 三 雄
土 井 雄 介
根 本 一 秋
橋 本 高 之
藤 田 義 昭

※五十音順、敬称略

※同意をいただいた方のみ

記載しました。

東海村“自分ごと化会議”
～公共施設の在り方を考える～

提案書

.....